

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム らい鳥(ちょう)		
所在地	〒071-8134 北海道旭川市末広4条7丁目5番5号 末広介護支援館ANNEX 2階3階		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中に位置し、傍にはスーパー・美容室・飲食店・歯科・提携先のクリニックがあり利便性が良い。
グループホームらい鳥の棟内は広過ぎず居間を中心に各部屋があり行き来がし易くトイレも間隔的に設置されどの部屋からも近く通いやすい。
キッチン是对面式であり居間の様子や部屋からの出入の様子も把握し易い作りとなっている。
毎日、入居者の皆さんと職員がふれあう時間があり楽しむ時間もある。
午前・午後に体を動かす時間があり心身の活性化にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは医療法人が主体にあり、高齢化し、病を多く持つ利用者にとって、また家族にとっても安心の場となっている。近隣にはスーパーや飲食店、美容室、バス通り、主体の病院が目の前にあり、利便性のある良い立地である。各ユニットで利用者の暮らしぶりが判る手書きの文章と、笑顔あふれる写真が掲載された通信が毎月配布され家族に喜ばれている。家族の面会時には、職員が話し易い雰囲気を作り、意見や要望を聴けるように努めている。職員と協同で利用者は、年に1、2度家族に直筆ではがきを出したり、一緒に出かけられるような場面作りに声かけし、家族との関係継続を応援している。地域との相互協力関係作りや運営推進会議開催には至っていないが、管理者は前向きに検討しており、次年度の活動に期待が出来る。末広や春光地域に幅広く展開している同法人グループが、地域住民が不安なく暮らし続ける事が出来るように、医療・福祉の拠点として期待出来る場所である。

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの生活を継続出来る様に理念にも取り入れ共有をし心掛けている。	法人内の同グループホーム3か所が、統一の運営理念とケア理念を掲げており、利用者主体とその人らしい生活が継続できる内容となっている。職員は利用者が規制されることなく、自由に暮らし、想いに応えられるようなケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへの買い物や近隣の飲食店へ食事をしに行ったりパフェなどの甘味を味わいに行ったりケーキを買いに行ったりとしている。皆が好む様な形や交流をし易い形で繋がりに取り組んでいる。	管理者から町内関係者に声かけなどを行っているが、町内会の加入については現在理解が得られていない。立地環境が良い事もあり、スーパーへ買い物や飲食店の利用、近隣で開催の祭り見学に出かけることもある。	利用者が地域の一員として心地よく暮らし続ける為、ホーム側からの積極的なアプローチが地域へ溶け込む重要なカギとなる。近隣に拘らず、各方面のボランティアや婦人会、保育所や学校へ声かけする事で来訪につながり、交流が始まる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせてはいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かせてはいない。	運営推進会議の開催はなく、検討中である。	運営推進会議は外部の人の目を通し、ホーム活動の取り組みや改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る為の貴重な機会となる。行政職員、家族代表、知見者等を選定し、早期に会議の開催が開始される事が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時の連絡に留まっている。	管理者は市の窓口へ直接出向き、手続きや相談の対応をしている。地域包括支援センターからは毎月訪問があり、地域の情報や研修の案内がある。保護課の職員は年1～2回の訪問があり、状況確認を行い、職員は情報を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を極力しない方針であり止むを得ず必要となる場合においても職員本意の意向ではなく本人にとって最低限の拘束となる様に努め必ず承諾を頂いて実施する事としている。拘束後も廃止に向けての検討会を開き長期間にならない様にも努めている。	身体拘束は行わない旨の条項を運営規定に定め、ホーム内や法人合同での研修も続けている。安全確保の為、止むを得ず拘束となる時も、家族と十分に話し合い同意を頂き、ケアプランにも記入する事で毎月モニタリング評価を行い、改善に向け検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を毎年設け職員全体で学ぶようにしている。自己で振り返る機会にも繋がっている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会を得られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約書に目を通して貰いながら口頭説明をし不明な点や気になる事は無いかを確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、広報誌を発行し月々の生活の状況をお知らせしている。意見・要望については、ケアプラン作成時等を通して確認をしている。意見等、上がった場合、職員全体で検討・考慮し確保に繋げられる様に努めている。	各ユニットで利用者の暮らしぶりが判る手書きの文章と、笑顔あふれる写真が掲載された通信が毎月配布されている。面会時に家族とは、話し易い雰囲気を作り、意見や要望を聴けるように努めている。要望があった時には職員と話し合い検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時を利用したり、希望時には個人面談を実施。その意見を代表者へ挙げ検討して頂き結果を下ろしている。	朝の申し送りの他、毎月各ユニット合同でミーティングが行われている。その後各ユニットに分かれ担当者のモニタリングも行われ、活発に意見交換や提案が出されている。人事考課を取り入れ、職員は考課表に記入し、振り返りや意欲の向上に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を年2回取り入れている。勤務状況や労働時間についても毎月、把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加については多くはないが有り。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの程度に左右されるが対話・傾聴をしている。コミュニケーションの難しい方の場合には、日々の言動を見、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプラン作成時に聞く様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り努め本人・家族からの意向がない場合においても状況を見、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のみならず、生活を共にしている皆さんと日常を過ごしている。誕生日を祝う・外食・買い物などを通して生活の時間の一つとして捉え築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支え方は家族により様々であるが出来る限りの範囲で協力をして下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に訪問の形となっているが出来る限り努めている。電話を希望する方には取次ぎをして支援をしたりと。	職員と協同で利用者は、年に1・2度家族に直筆ではがきを出したり、一緒に出かけられるような場面作りに声かけしている。友人が訪ねてくれたり、電話の取り次ぎなども馴染みの継続支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し外出をしたり、毎日、食事時間の他にも集う時間を作り関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを大切にす為、日頃から言動に注意をしている。又、ケアプラン作成時には職員全体で検討し意向を把握し取り組んでいる。事前に担当者が把握・検討をしておく等、二重に検討をしている。	センター方式の活用で毎年アセスメントを行い、状況の把握を継続している。利用者の表情・言動や家族からの聞き取りで本人の望んでいることや困っていることを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聞き取りをしたり、身近な方の来訪時に人となりや聞いてみたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人に記録を取っており日に二度の状況の申し送りをし把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への意向確認・本人からの意向を軸に課題・ケアの方向性を検討・計画をしている。モニタリングについては毎月、担当者により行い日々の生活の様子・日々の発言から察しモニタリングをしている。ケアマネージャーの他、職員も関わる事で状況の把握に努めている。	毎月ケアプランの目標がどのように達成できているかの記録を各担当者が責任を持って行い、評価の時期にはケアマネを中心に話し合い、プラン作成に向け検討している。家族とは事前に話し合い、プラン内容の確認が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は主にミーティング時に行っている。本人の様子の記入は行えているが気づき・工夫の記入は不足している。ケアについても実践を主に記入しており結果までの記入も不足している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握可能な資源は多くはないが把握できた分に関しては出来る限り支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の有無を確認した下で提携医療機関の説明をし承諾の下で受診をしている。	入居前のかかりつけ医を基本としているが、話し合いで協力医への変更もある。毎月数回の往診があり、ホーム内での生活の様子を見てもらいながら、健康管理が続けられている。必要時には他の科の受診支援も行われ、職員は結果を家族に報告している。	

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医師による往診がありその時に相談・上申をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	中々、出来ず。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については入居時に説明をし結んでいるが終末期に関しては中々出来てはいない。	重度化や終末期に向けた指針・方針を作成し、入居時に同意が得られている。ターミナルについては、状況に応じてグループホームとして対応できるケアを口頭で説明し、主治医と家族が十分に話し合い、支援の対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練にに留まっている。	スプリンクラー・緊急通報システムの設置、設備会社の協力で日中・夜間想定避難訓練を継続している。他に毎月自主訓練として、当番制により緊急の災害訓練が行われ、様々な出火場所を想定して行われている。備蓄についての検討も進められている。	不測の事態に備え、職員だけの誘導には限界があり、地域の協力が得られる取り組みが必要である。運営推進会議の早期開催に合わせ、会議の中で災害時の相互協力が得られるような広報ができるように期待する。備蓄についても、工夫する事での検討に期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれ注意を心掛けてはいる。時間の経過と共に薄れている場合には再度、注意を促し合っている。	人格の尊重やプライバシー保護についての研修を毎年開催し、内容を確認している。管理者から話をする事や、気づきがあればミーティングのテーマとする事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらでの決定を希望する方も多いが、その場合でも出来るだけ自己決定を引き出そうとはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の希望を確認・支援は中々出来てはいないが出来る限り支援したくケアプランにも取り込んだりし希望に添えられる様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理容による散髪を支援し身だしなみに気を配り、好む服装なども把握し支援したりをしている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の症状に合わせて協力をして頂いたりしている。食材を配達で賄っている為、日頃、好みを取り入れての提供は難しい為、行事の時や、誕生日の時・外食の時に取り入れ味わい楽しんで頂いている。片付けについても毎日ではないが状況を見て頼み一緒に行っている。	各ユニットは直接の買い出し・業者から配達の形態を取り入れメニューも違う。利用者の嗜好を取り入れ、食事形態に配慮した内容となっている。職員と一緒に、季節を感じながら食事を楽しみ、後片付けの手伝いには利用者も関わり、力を活かしている。外出レクの時に食事したり、お祝い食やイベントに合わせた工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量を把握し提供している。水分も食事以外にもこまめに提供している。飲みたがらない方についても不快にならない程度にこまめにこまめに促し補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの促しをしている。毎食後を好まない方には嗽だけでもと誘い行って貰っている。また、全てを職員が行うのではなく不足面を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を見、極力オムツの使用をしていない。失禁をしてしまわない様に本人の様子・タイミングを計りトイレ誘導をしている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導をしている。トイレ排泄を基本に、夜間も利用者の習慣に合わせた対応をしている。退院後の身体状況低下改善の取り組みも、積極的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中に軽体操・午後にはラジオ体操を行い体を動かす日課が有り便秘予防にも努めている。水分補給や人によっては食事を食べ易い形態にし提供をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングに合わせた入浴を心掛けている。希望の順番に対応している方もいる。曜日・時間帯については人員の配置の関係から日中に勤務状況により決定をしている。	週2回、入浴できるように支援している。天候や身体状況に合わせた対応も適宜行い、午前と午後に分けゆっくりと入浴を楽しんでいる。拒否傾向の利用者には、強要する事なく穏やかな誘いで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠の妨げにならない程度に本人の体調・体力をみて午前午後30分～1時間を目安に昼寝を促している。冷え性の方には湯たんぽにて保温を行い寝付き易い様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大まかには把握しているが内服量が多すぎて把握を仕切れていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビールを提示したり、好物を提供したりとしている。生活歴を生かすまでには至ってはない。出来る限りに留まる。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・夏場は毎月外出行事を取り入れている。日頃では近隣のスーパーへ嗜好品を買いに行ったりし外出の機会を増やしている。 家族支援により日頃では行けない所への外出をして下さる方もいます。	年次計画の中で、毎月外出や室内イベントの計画を立て近郊を見学出来るように実践されている。花見やピクニック、ショッピング、外食の機会などがあり、利用者も楽しみにしている。自宅への帰省や家族と旅行や温泉に行く家族もいて、途切れない関係づくりを応援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状況により対応をしている。支払い時に関しては、見守りの下で行って貰っている。上手く支払いが出来ない場合は代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望をする方には代行を含め支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激のある光・広さはなく温度・湿度にも気を付けている。音に関しては配慮に欠けた音も少なからずあり注意に努めている所である。 四季を感じて頂ける様に季節の作品を掲示したり皆さんと工作したりしている。	リビング、トイレ、浴室、居室は広く、ゆったりと明るくゆとりのある空間となっている。季節に合わせた作品がバランスよく飾られ、室温や湿度に気を配り、掃除も行き届き清潔感がある。気になる匂いもなく、利用者が心地よく生活できるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやサイドテーブルを設置し書籍などを置き気兼ねなく過ごして頂ける様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん想いでの品を持参したり入居していくにつれ増えていっている。	居室にはクローゼットに整理ダンス、ベッド、カーテンが設置され、利用者は使い慣れた寝具、テレビ・衣類が持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫している。誕生日を祝う手作りの合作ポスターが、それぞれの居室に貼られ、利用者と一緒に暮らすぬくもりが感じ取れる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内の廊下には手すりが設置されておりバリアフリーになっているため行動には制限は受けず。トイレには標識があり判るようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム らい鳥(ちょう)		
所在地	〒071-8134 北海道旭川市末広4条7丁目5番5号 末広介護支援館ANNEX 2階3階		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2Fユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの生活を継続出来る様に理念にも取り入れ共有をし心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへの買い物や近隣の飲食店へ食事をしに行ったりパフェなどの甘味を味わいに行ったりケーキを買いに行ったりとしている。皆が好む様な形や交流をし易い形で繋がりに取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時の連絡に留まっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を極力しない方針であり止む得ず必要となる場合においても職員本意の意向ではなく本人にとって最低限の拘束となる様に努め必ず承諾を頂いて実施する事としている。拘束後も廃止に向けての検討会を開き長期にならない様にも努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を毎年設け職員全体で学ぶ様にしてはいる。事故で振り返る機会にもなっている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会を得られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約書に目を通して貰いながら口頭説明をし不明な点や気になる事は無いかを確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、広報誌を発行し月々の生活の状況をお知らせしている。意見・要望については、ケアプラン作成時等を通して確認をしている。意見等上がった場合、職員全体で検討・考慮し確保に繋げられる様に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時を利用したり、希望時には個人面談を実施。その意見を代表者へ挙げ検討をして頂き結果を降ろしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を年2回取り入れている。勤務状況や労働時間についても毎月、把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については多くはないが有り。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修をとって機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの程度に左右されるが対話・傾聴をしている。その都度、本人に確認をしている。コミュニケーションの難しい場合にも日々の言動を見、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り勤め、本人・家族からの意向がない場合においても状況を見、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のみならず、生活を共にしている皆さんと日常を過ごしている。誕生日の日にはケーキを作り皆で祝い外食や買い物などを通して生活の時間の一つとして捉え築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支え方は家族により様々であるが出来る範囲で協力をして下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に訪問の形となっているが出来る限り努めている。電話を希望場合は取り次ぎで支援。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し外出をしたり、毎日、食事時間の他にも集う時間を作り関係構築に努めている。自然と互いにゲームをして楽しみ合う姿も見られる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には努める様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを確認し、日頃からの言動に注意している。ケアプラン作成時には職員全体で検討し意向を把握し取り組んでいる。事前に担当者が把握・検討をしておく等、二重に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聞き取りをしたり、身近な方の来訪時に人となりを聞いてみたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人に記録を取っており日に二度の状況の申し送りをし把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への意向確認・本人からの意向を軸に課題・ケアの方向性を検討・計画をしている。モニタリングについては毎月、担当者により行い日々の生活の様子・日々の発言から察しモニタリングをしている。ケアマネージャーの他、職員も関わる事で状況の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有はミーティング時に行っている。本人の様子の記入は行っているが気づき・工夫の記入は不足している。ケアについても実践を主に記入しており結果までの記入も不足している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握可能な資源は多くはないが把握できた分に関しては出来る限り支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の有無を確認をし提携医療機関の説明をし了承の下、受診をしている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医師による往診がありその時に相談・上申をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	中々、出来ず。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については入居時に説明をし結んでいるが終末期に関しては中々出来ていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練に留まる。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれ注意を心掛けてはいる。時間の経過と共に薄れている場合は再度、注意を促し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらでの決定を希望する方も多いが、その場合でも出来るだけ自己決定を引き出そうとはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の希望を確認・支援は中々出来てはいるが出来る限り支援したくケアプランにも取り込んだりし希望に添えられる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理容による散髪を支援し身だしなみに気を配り、好む服装なども把握し支援死したりしている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に配膳準備と片付けをして頂いている。毎日毎食の日課となっている。行事の時やお祝いの時・外食の時に好きな食事を味わう機会を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた水分量を把握し提供している。水分も食事以外にもこまめに提供している。飲みたがらない方についても不快にならない程度にこまめにこまめに促し補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの促しをしている。毎食後を好まない方には嗽だけでもと誘い行って貰っている。また、全てを行うのではなく不足面を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を見、極力オムツの使用をしていない。失禁をしてしまわない様に本人のタイミングを計りトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前に軽体操・午後にラジオ体操を行い身体を動かす日課が有り便秘予防にも努めている。この他にも階段昇降運動を取り入れている方もいる。水分補給や人によっては食事を食べ易い形態にし提供をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングに合わせた入浴を心掛けている。曜日・時間帯については人員の配置の関係から日中に勤務状況により決定をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠の妨げにならない程度に本人の体調・体力をみて午前午後30分～1時間を目安に昼寝を促している。冷え性の方には湯たんぽにて保温を行い寝付き易い様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大まかには把握しているが内服量が多すぎて把握を仕切れてない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好む手伝い・好きなゲームの提供、毎月の行事・外出等々を行っている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・夏場は毎月外出行事を取り入れている。日頃では近隣のスーパーへ嗜好品を買いに行ったりし外出の機会を増やしている。家族支援により温泉などに連れて行ってくださる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状況により対応をしている。支払い時に関しては、見守りの下で行って貰っている。上手く支払いが出来ない場合は代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望をする方には代行を含め支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激のある光や刺激はなく温度・湿度にも気を付けている。音に関しては配慮に欠けた音も少なからず有り注意に努めている所である。四季を感じて頂ける様に季節の作品を掲示したり皆さんと工作をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しフットマッサージも一緒に置いたりして来易い様にしている。出し入れし易い様にゲームなどを棚に設置して置くと出して遊び合う姿など見られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん思い入れの品を持参したり入居して行くにつれ増えていっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内の廊下には手すりが設置されておりバリアフリーになっているため行動に制限は受けず。トイレには標識があり判る様にしてある。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム らい鳥

作成日：平成 25年 3月 12日

市町村受理日：平成 25年 3月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・4	慢性化した職員人員不足の中での開催。計画立案をして来なかった点。	定期的に運営推進会議の開催を行う。	4月中に初回の開催。順次、2ヶ月に一度の開催を行い、地域交流を目指す。	1年
2	35	備蓄軽費を与えられない点。	備蓄の強化。	月々の軽費より捻出し徐々に購入。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。